

練馬通信

No. 360

平成 29 年 2 月
練馬第二小学校
校長 大槻 亨

小中一貫教育の充実に向けて

校長 大槻 亨

一月は、今年度最後の第二土曜授業および校内書き初め展に多くの保護者の皆様にご参観いただきました。また、練馬区立美術館で行われた練馬区小学校連合図工展や連合書きぞめ展にも、多くのご参観をありがとうございました。

さて、一月二十日に練馬文化センターにおいて、ねりま小中一貫教育フォーラムが開催されました。このフォーラムでは、練馬区の中学校区ごとにグループ化した小中学校が、連携の在り方を研究・実践した内容について、グループごとに発表を行いました。今回は、九グループの中学校区が平成二十七・二十八年度の二年間の研究成果を発表しました。そこに、本校も貫井中学校区として、貫井中学校および練馬第三小学校と協働して発表しました。

練馬区は、小中連携の在り方の研究を始めて十四年にもなります。それ以降、様々な小中学校が小中連携の実践

研究を積み重ね、平成二十三年には、練馬区で初の施設一体型の小中一貫教育校として、大泉桜学園が開校しました。平成二十四年度からは毎年のようにフォーラムを開催し、小中一貫教育を推進してきたのです。練馬区が小中一貫教育で目指しているものは、○授業改善による学力・体力の向上 ○連携指導による豊かな人間性・社会性の育成 ○滑らかな接続による安定した学校生活の三点です。これは、施設一体型であれ、施設が離れた小中学校であれ、共通の目標としています。

貫井中学校区では、この二年間の研究を通して、算数や外国語を中心に、小中学校で力を入れるべきポイントを明確にし、共通して指導をしていくためのカリキュラム開発を行いました。また、中学校の部活動体験や合唱コンクールのリハーサル見学などの新たな取組を行いました。互いの交流を通して、小学生が中学生への憧れをもち、中学生は、

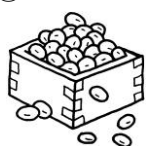
自らの成長を振り返り、より充実した中学校生活を送ってほしいという意欲の向上につながりました。

少子化が進み兄弟姉妹が少なくなっている中で、子供たちがお手本にしたい先輩を身近にみる機会が少なくなってきたと言われます。小学校と中学校が連携・交流して、兄弟姉妹に代わる子供同士によりよい関係を体験させることは重要であると考えます。本校では異学年交流を活発に行い、その効果は子供たちが体現しています。しかし、本校で完結するのではなく、貫井中学校区として、皆が力を合わせて子供たちを育てる必要があると思います。子供たちの学びは連続しており、その活動の拠点は地域に広がっています。練馬小や練馬三小の学区にこだわらず、地域に住む子供たちを地域の学校が協力して育てていくのは当然のことと言えると思います。

本校は共に学び、共に育ち、夢をはぐくむことを目指しています。地域と共に学び、地域と共に育てることで、子供たちの夢をはぐくむことが大切であると考えます。その実現のためにも、これからも地域や保護者の皆様と手を携えて、子供たちの育成を図ってまいりたいと思います。今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

二月の行事予定

- 6 (月) 委員会活動
- 8 (水) クラブ紹介集会①
- 9 (木) クラブ紹介集会②
二分の一成人式(四年)
- 11 (土) 建国記念の日
- 13 (月) お話の会(一、二年)
クラブ活動
- 14 (火) お話の会(三、四年)
新一年生入学説明会
午前授業(一、二年)
- 15 (水) マラソン月間終・午前授業
- 17 (金) 避難訓練・煙体験(二年)
- 20 (月) クラブ活動
- 21 (火) 保護者会(五、六年)
薬物乱用防止教室(六年)
- 23 (木) 保護者会(三、四年)
ファミリールール(三、四年)
- 24 (金) お別れスポーツ大会(五、六年)
- 27 (月) PTA総会
- 28 (火) 保護者会(一、二年)



★今月の生活目標

・じょうぶな体を作ろう。

★週の生活目標

・上着をぬいで遊ぶ。
・寒さに負けずに元気に遊ぶ。

温かい気持ちで世界に

届きますように



特別活動主任 柳井 裕美

今年度は一月十一日から、代表委員会を中心にユニセフ期間を実施しました。

ユニセフ朝会で、三つのことを発表し、クイズを出題しました。一つ目は、五秒に一人という短い間に、子供たちが五歳になる前に亡くなっている現実があること。二つ目は、亡くなってしまう原因の一つが、下痢であること。三つ目は、困っている世界の子供たちの力になるためにユニセフがしている活動についてです。真剣に聞き入る子供たちの眼差しがとても印象的でした。

募金は、朝早くから、昇降口に代表委員が全員集まり、一生懸命呼びかけをしました。代表委員自作の募金箱には、たくさん募金が集まっています。

お預かりした募金を開けてみると、こんなお手紙が入っていました。「ユニセフの人、代表委員の人、がんばってください。このお金が誰かのためになりますように。」代表委員の子供たちは、「はい、がんばります!」「嬉しいな」とますますやる気を出していました。練二小の子供たちの素敵な気持ちは、きっと世界の子供たちに届くことでしょう。

おかげさまで今年度は、「五万五千五

十五円」集まりました。「下痢で命を失うことを防ぐ経口補水塩」が約六千六百錠買うことができました。

皆様の温かいご協力、本当にありがとうございます。ありがとうございました。

二分の一人式に向けて

四年担任 神谷文子・武井一彦

四年生は、二月九日(木)の五、六時間目に、「二分の一人式」を行います。

「二分の一人式」は、十歳という節目の歳を迎えたことを祝い、今までお世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えるとともに、これからの夢や目標に向けての決意を表明する式です。

まず、各クラスで大人について考える授業をしました。「あなたが考える大人とは」というテーマで話し合うと、「仕事をまじめにしている」「たくさんのお金を知っている」「何でも自分でする」などいろいろな意見が出ました。そして、そんな大人になるために今からできることを考えました。

「二分の一人式」では、自分のよさを伝えるCMを作ったり、手紙や歌やよびかけで感謝の気持ちを伝えたりできるよう準備しています。また、「二分の一人式実行委員会」の子供たちが、案内状の作成、会場の装飾、司会原稿の

準備などを行っています。

共にお互いの成長を祝い、感謝の気持ちもてる会にしていきたいと思えます。保護者の皆様の思い出に残る会になるよう取り組んでまいります。

算数少人数指導の学習

算数少人数指導担当 杉山 知久

今年度、算数では三、六年生の二学級を四コースに分け、習熟度別少人数学習を進めてきました。担任の先生と学力向上支援講師の稲木先生と連携し、一人一人に応じたきめ細かい指導を行っています。昨年度よりも一コース増えたことで、より一層学習内容の確実な定着や、問題解決能力や思考力の育成を図っています。

習熟度別の少人数学習を行うことによつて、のびのびコースやすすくコースでは、今まで自分から進んで発表できなかった子供が手を挙げるようになりました。習熟度の同じ児童が集まることで共通の疑問が生まれ、恥ずかしがらずに質問ができるようになり、子供たちの様子に変化が見られるようになりました。ぐんぐんコースでは、子供たち同士で説明し合うことや議論を交わすなど、意欲的に学習を行っています。

今後も子供たちが「分かった。できた。

楽しい。」と思えるよう、分かりやすい授業づくりを心がけていきたいと思えます。

校内研究について

研究主任 菊地 美里

昨年度に引き続き「主体的に学ぶ児童の育成」もつと知りたい、考えたい、伝えたい」というテーマで研究に取り組んできました。練二小の児童のよさ(「素直」「感受性が豊か」「どんなことにも真面目に取り組む」など)をさらに伸ばし、児童の「もつと知りたい、考えたい、伝えたい」という意欲を引き出すことができるように、研究してきました。

今年度は、主に低学年と中学年は算数科・高学年は外国語活動、さらに、音楽や図工の学習で、初めてのことに「やってみよう!」と思えるように、教材との出会いの工夫をし、さらに、体験的な活動を取り入れることで、子供たちの主体的な姿に迫りました。授業中、子供たちのやる気に満ちた、キラキラした表情をたくさん見ることができました。

授業研究は、終わりのあるものではありません。これからも子供たちの学力向上を目指し、子供たちが主体的に学べる場を多くつくれるよう、努めていきたいと思えます。